

# WEEKLY

# 一宮

題字 PG 安野謙次

## Rotary



### The Rotary Club of Ichinomiya

●例会日 木曜日 ●例会場 一宮商工会議所 ●承認日 昭和24年12月31日  
●事務局 一宮市栄4-6-8 一宮商工会議所ビル5階 電話(0586)24・1931 ・491-0858



## 未来を描こう、笑顔でつなごう

URL:<http://rc138.org> E-Mail:[rc138@lily.ocn.ne.jp](mailto:rc138@lily.ocn.ne.jp)



重文 「陵王」面 真清田神社蔵

## 2023年3月23日 第3542回例会

会 長 関 戸 徹 会長エレクト 足 立 誠  
副 会 長 青 山 佳 裕 副 幹 事 富 田 隆 裕  
幹 事 吉 田 真 人 会 報 委 員 長 熊 田 慎 二

### プログラム

#### 卓 話

平松 正光氏

(オリエンタルビル(株)常務取締役)

テーマ「自動車の昨日、今日、明日」

ロータリーソング 「四つのテスト」

### 第3541回例会の記録 2023年3月16日(木)

#### 会長挨拶

関戸 徹

みなさんこんにちは。今日聞いていただいたのは皆さんご存知のピンクレディーのペッパー警部です。何を言いたいかといいますと今WBCではやっているペッパーミルポーズにひっかけたわけです。

WBCの試合の途中ヒットを打ったヌートバー選手が日本で始めてこのパフォーマンスを使い、メジャーリーガーの大谷選手がそれに答え同じポーズ。後は日本チームのベンチ全体にひろがったというわけです。

それではこの「ペッパーミルポーズ」「ペッパグラインダー」にはどのような意味や歴史があるのでしょうか？実はまだこのパフォーマンスはできたばかりです。

2022年の夏ごろ、ヌートバー選手が所属しているセントルイスカージナルスのキャッチャー、アンドルー・キズナー選手が「WE ARE GRINDING」「こつこつ粘り抜こう」とチームメイトを鼓舞したのが始まりだそうで、それからヒットが生まれたときにベンチやランナーがこのポーズをするようになったということです。

### 次回の予定

3/30 休会 定款第7条第1節 d-1

4/6 青少年交換学生 トア君

しかも、セントルイスカージナルスで、はやらせたのも実はヌートバー選手だそうで、最初はポーズだけだったのが本物のペッパーミルをベンチに持ち込んでガシガシやっていたのだそうです。

#### 委員会報告

##### ニコボックス

三嶋啓一郎

☆ 村川文穂君

本日よりソングリーダーを努めさせていただきます。よろしくお願ひします。

☆ 足立 誠君

3月15日に「大成中学・高等学校インターアクトクラブ」の卒業式に都築委員長・野田副委員長のお二人にご出席頂き、加えまして卒業生12名に素敵な記念品を贈呈して頂きました。

大変喜んでおりました。

☆ 都築 健君

3月15日に大成中学・高等学校インターアクトクラブの卒業式を迎えることができた喜びに。

☆ 関戸 徹君 吉田真人君

本日は名城大学人間学部教授の谷口博士の卓話を頂く喜びで。

#### 出席報告

現在の会員数	111名
本日の出席数	63名
前々回の出席率	100%



今年も咲き始めた昨年植樹の葵公園の寒緋桜

\*\*\*\*\* プログラム \*\*\*\*\*

卓 話

谷口義則氏

(名城大学人間学部教授・博士)

テーマ「プラスチック類による海洋汚染問題」



紹介者 中部電力 黒崎恵美様

私たち中部電力は山から川やその流域、海に至るまで、自然の中で発電～送配電といった事業活動をしており、地球温暖化対策を含めた環境配慮、自然との共生は大変重要なことと認識し、様々な環境保全活動を行っています。また弊社は名城大学様と産学連携協定を締結し、協同で環境保全に関する取り組みを実施しています。本日はこのつながりを通じて、名城大学 人間学部 谷口義則教授をご紹介させていただきます。



名城大学人間学部教授谷口義則様より「水環境の危機」:プラスチック問題地球が誕生してから今日までの46億年の歴史を1年のカレンダーに縮小した「地球カレンダー」では、1月1日に地球が誕生し、4月4日には最初の水の中生物バクテリアが誕生。11月30日に魚類が出現し、12月9日に恐竜全盛期を迎えます。ヒトが登場したのは大晦日31日の午後11時30分。そして産業革命が起きたのが午後11時59分58秒。現在の我々の近代文明は最後のたったの2秒間です。その瞬きするほどの間に人口が急増する一方で、生物多様性がどんどん失われ続けており、現代は恐竜絶滅期以来、最大の生物種の絶滅期と言われています。種の絶滅要因は乱獲、生息地の破壊、外来種の台頭。そしてプラスチックも要因の一つと言われています。世界のプラスチック生産量は3億9千万トン。このうち9%がリサイクル、12%が焼却処分、79%が埋め立てまたは投棄されてい

ます。そして2050年までに海洋中に存在するプラスチックの量が、地球上に住むすべての魚の量を超過するとまで言われています。

プラスチック汚染により、海鳥100万羽と海洋性動物10万個体が毎年死亡しています。例えばカモメの餓死。廃棄レジ袋がカモメの胃のスペースを占領することにより、エサが食べられなくなって餓死するカモメが多くいます。カモメの胃の中にはレジ袋だけでなく、漁具やゴルフボール、ライターなども見つかっています。オーストラリアの世界遺産 ロード・ハウ島のミズナギドリという絶滅危惧種の海鳥(渡り鳥)は、ヒナにプラスチックを餌として与え続けており、生後90日のヒナ1羽の胃から276個ものプラスチック片が確認されました。これは体重の15%に当たり、人間でいうと6~8%ピザ12枚分に相当します。

マイクロプラスチック(以下「MP」という)は粒径が5mm以下のプラスチック粒子を指し、愛知県でも汚染が進んでいます。実際に海に流れ着く手前、愛知県内14河川でMP発生量の調査を行った結果、平均7.8個/m<sup>3</sup>ものMPが確認されました。これは関東地方の平均0.2個/m<sup>3</sup>をはるかに超える量でした。MPの多くは畑や田や家庭菜園などで利用される農業用肥料カプセルや人工芝、ペレット状になったレジンやスチロール片でした。

MPは小さく回収が困難で、小型魚類による誤飲の可能性、そして生物濃縮による人への影響が懸念されます。また海中のMPは波しぶき、上昇気流とともに、大気中に放出されることがわかっており、新宿でも5.2個/m<sup>3</sup>のMPが大気中で確認されています。これを成人が吸い込む量に換算すると、1日当たり72個、年間26,000個となります。大気中を浮遊するMPは3~7ミクロンと極小さいため、肺の奥に入り込み、アスベストのように作用し、発がん、腫瘍などの健康の被害の恐れとなります。また有害物質であるPCBも検出されており、甲状腺機能低下なども引き起こす恐れもあることが判明しています。そして世界各国で既にMPが人の健康に影響を及ぼしていることが確認されています。MP対策として、世界各国ではレジ袋の禁止、有料化など様々な対策が取られています。また、このピンチをチャンスに変える新たなビジネスも始まっています。カナダのデビッド・カツツが設立したプラスチックバンクは、住民が廃棄プラスチックを集め、仮想通貨に交換したり、指定の店舗で食料・水・日用品と交換できる仕組みを作りました。この取り組みを通じて、ハイチでは年間35億トンもの廃棄プラスチックが回収され、失業対策と同時に廃棄プラスチックの再利用につながっています。

最後にプラスチック流出を防ぐ身近な取り組みをご紹介します。「グッピーフレンドウォッシングバッグ」(網目の細かい洗濯ネット)を使って洗濯をしたところ、フリースからプラスチック繊維くずが多く回収されました。海に流れ着く前に補足できたのです。海岸清掃などの事後対策もありますが、マイクロプラスチックを発生させない「まずは蛇口をひねること」が重要と考えます。みなさんでもできることから始めてみてはいかがでしょうか。